

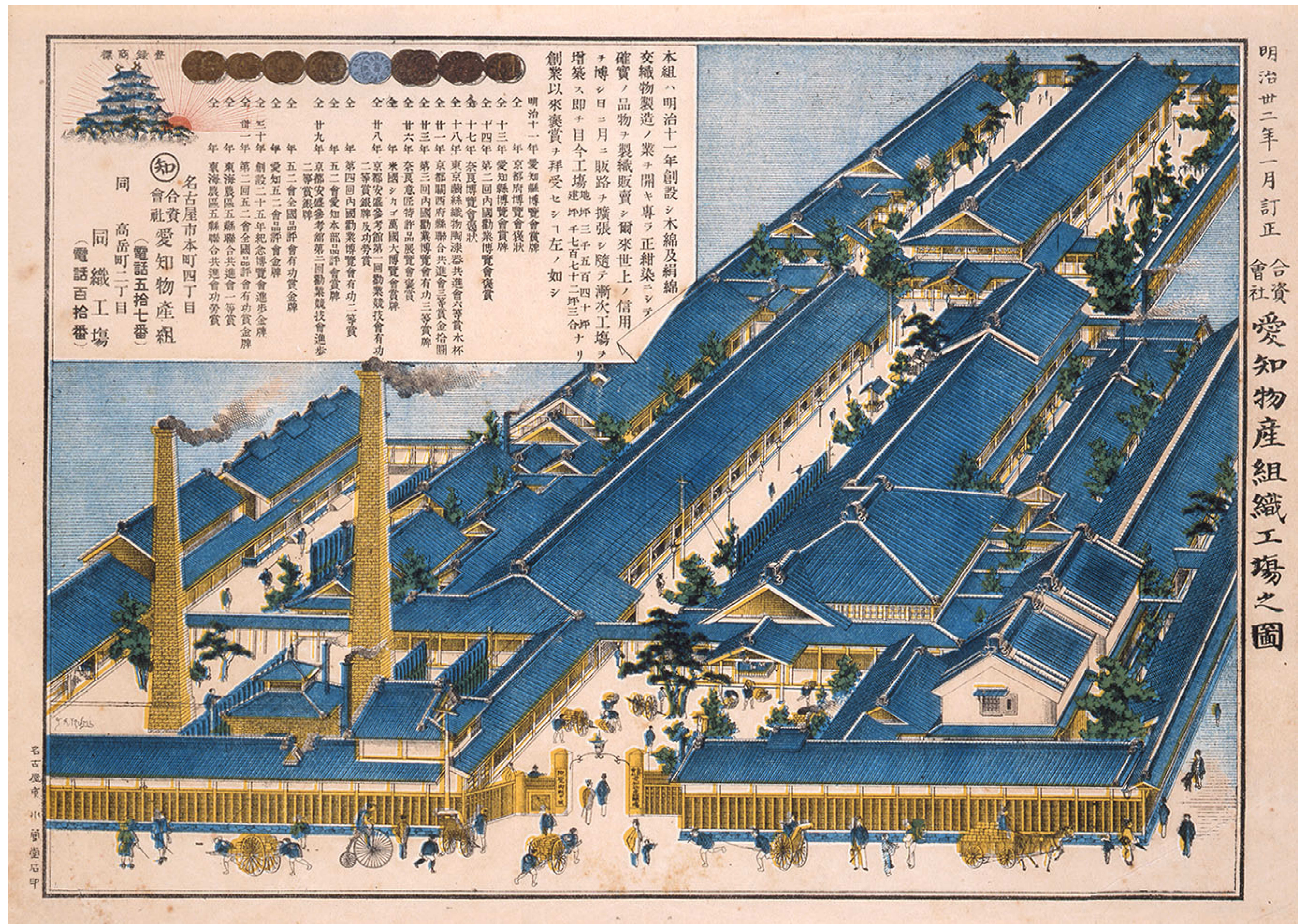
「物産織」で名を馳せた愛知物産組

愛知物産組は祖父江重兵衛等によって明治11(1879)年1月設立され、絹木綿、絹綿交織物を生産した。困窮した士族就産に協力し、工女は県織工場卒業生を採用した。一時経営不振に陥った際、士族授産への貢献が認められ、明治12年9月に内務省から資金2万円が貸与された。

以後発展をとげ、同社の製織する「物産織」は織物の代名詞となった。小倉織綿フラネルは官庁や巡査の制服に使われた。

県織工場の関連で創設された織物会社には、東興益組と、県織工場から自立した

佐々組(下堀川町分場)、静和組(豎代官町分場)などがあつた。東興益組は、木綿や小倉を集めて販売していたが、後に杉ノ町に織物工場を開設した。下堀川分場から独立した佐々組(後に佐々組)は緋織り、豎代官町分場から独立した静和組は結城縞を製織した。



愛知物産組の高岳町の織工場(明治42年)

(名古屋市博物館蔵)

祖父江重兵衛 (1844 ~ 1904)

~物産織で名声を得る~

丹羽郡栄村(現江南市)の農家に生まれる。明治2(1869)年名古屋本町に弟源次郎(妹婿、同14年逝去)とともに呉服商を開き、事業家としての基礎を築いた。11年に、横井半三郎等と協力し、士族の子女を織工に雇用する愛知物産組を設立。明治22年、市内七曲町にあった工場を高岳町に移転して事業を拡大し、製品改良を重ねて「物産織」の名声を得た。重兵衛は、愛知物産組のほか、名古屋紡績、愛知石炭商会、三河セメントなどの事業にも関わった。明治34年、緑綬褒章受章。



祖父江重兵衛

出典：『本邦綿糸紡績史』